
愛と恋についての奨め P A R T 2男の恋愛観と、男の惚れさせ方

D E G

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愛と恋についての奨めPART2……男の恋愛観と、男の惚れさせ方

【Nコード】

N2598F

【作者名】

DEG

【あらすじ】

男性はこんな風に「恋愛」をします。恋って難しい……そう思う方、おバカな男達の恋愛理論をちよつと覗いてみてください。（前回の理論と併読なさると読みやすいかもしれません）

（前書き）

男性がみなそう思っているかはわかりません。あくまで私個人の考えです。

みなさんお久しぶりです、私はMです

やはり被虐好きのそれではなく、単にイニシャルMです

今回は愛について、特に男性に於ける恋愛ということがらの手順とステップについての会談を、ご存知、先生に伺いたいと思います

では先生、よろしくお願いします

「よろしくお願いします」

先生はKという名前ですがややこしいので、先生とだけ呼びましょう

さて先生、本日は男性の

「恋愛」というものの段階と成長の仕方に着いて教えていただけますか

「はい。まず、男性は恋愛という心の成長をするにあたり、三つの段階を踏みます」

三つの段階ですか、ユングのアニマの段階と同じですね

「はい、この考えは確かにユングの心理学と同じ工程をとらえてい

ます。言い換えと言ってもいいでしょう」

確か男性は女性に対して、初めに母性を相手に求め、次に肉体的な欲求が生まれ、最終段階で精神的な欲求を抱くようになるのですね

「大まかにはその通りです。私の理論を砕いて恋愛観として説明すると、まず男性は女性の弱さに魅入るのです」

弱さですか。母性とは関係なさそうですが

「根拠は同じです。自分が守れる弱さ、そこに男性は女性への欲求を実感するのです。母が子を想うように、子は母を大事にしようとするでしょう」

確かに。まず弱さに惚れると。そこから恋は始まっているのですか

「恋が始まる、というのは物の見方に依って変わりますが、私は始まっているとしても良いと考えています。女性を求めた瞬間から、それが肉体的なものだとしても恋愛だと一般的に論じられていますから」

一般論では、かなり簡単に恋愛は出来るようですからね

「それが幸せに繋がる恋か、ただの欲望かは知りませんが、どちらも世では恋愛と呼ばれています」

ということとは、女性に弱さを見出だして庇護欲を掻き立てられたら、それは既に恋だというわけですね。小動物やなんかに感じるものと似たような気がします、それは触れないでおきます

「ある意味、人は小動物に恋をするのかもしれませんが。しかし、そこは触れないでおきましょう」

では、第二の恋愛段階というのはどうなのでしょう

「それはつまるところ、外面的、肉体的な要素にどれだけ魅力を感じるかです。これは個人差がありますが、三つ目の段階に到達した恋愛においてはほぼ無意味となる段階です」

無意味とは、どういうことでしょうか。この二つ目の段階を踏む必要はないということでしょうか

「そうではありません。男性の場合は特に、この肉体的欲求の段階で、三番目の精神的欲求へ成長する可能性が著しく変わるのです」

それはつまりどういう意味ですか

「三番目の精神的欲求段階に入るには、相手との親密な時間が多く必要となります。そうしなければ相手の女性をよく知ることが出来ないからです」

なるほど

「そして肉体的渴望は、男性に女性への執着を生みます。つまり、より魅力的な容姿の女性であれば、男性はより長く女性に傍にいたいと思うのです。言い方は悪いですが、いくら最初に庇護欲を掻き立てられても、不細工の傍にいたいとは男性は思わないのです」

男性とは馬鹿で正直で嫌な生き物ですね

「全く。しかし残念ながらそれが現実です」

要するに、男性は初めに女性に庇護欲を覚え、肉体を求めるうちにその相手の心に魅力を感じ好きになるわけですか

「はい。相手の精神面、心の内に対する欲求が生まれたら、それこそが最も崇高なあるべき恋愛なのです」

それは何故でしょうか

「何故ならば、その恋愛段階になってようやく、男性は女性に対して弱くなるからです。恋愛は決して、男性が女性より優位にあるべきではありません。男性は常に女性に対する暴力を持っているからです」

それは必然的な性的意味であり、また今の社会意識での意味合いですか

「その通りです。生物的にも、また社会的にも女性はや弱い。恋愛という男女の営みと成長において、男性は決して女性を蔑ろに出来る段階にはいけないのです」

結局、男性が女性の方に弱さを見せることが出来て、それが最高の恋愛の形であるというわけですね

「男は弱くなつてナンボなのです。でなければ男女の支え合いという関係は生まれません。単に一方的に依存し求めようとするのも恋とは言えるかもしれませんが、初めは誰しもがそうなのですから。しかしそれは信じられる関係ではありません」

難しいですね。やはり恋愛は、段階の途中で性急に意識するものはなさそうですね

「そうですね。より幸せを信じられる恋愛をしたいならば、憧れや庇護欲でなく、互いの依存関係を作り上げるべきです」

前回も同様のことをおっしゃりましたね。その理論はもはや確信できますか

「私は確信しています。恋愛は焦らない、冷静であるべきものだ」とよくわかりました。先生、本日はどうもありがとうございました

「ありがとうございます」

では、先生の言ってることが理解不能だと言う方に、私Mからさらにかみ砕いた恋愛論を述べます

男は、女の弱さに惚れます。

男は、女の美しさについていきます。

男は、女が自分の弱さを受け止めてくれて、そこで初めて

「本気の恋」をします。大抵、それ以前の恋は単なる欲求か期待に過ぎません。

男は、バカです。女性の皆さん、男にはどうか充分な警戒心を抱いてください。

そしてついに男が弱さを見せた時には、どうかしっかりそれを受け止め受け入れてください。そうしたら男は完璧にあなたに惚れます。好きになります。

男は、強がりながら弱さを見せたがる馬鹿な生き物なのです。

それでは、さようなら

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2598f/>

愛と恋についての奨めPART 2.....男の恋愛観と、男の惚れさせ方

2010年10月10日05時20分発行